

千曲川中流域における流動観測結果からみた流れ場の特徴

平成 28 年 2 月 宮本 光基・山崎 将史

要旨

目的

水生生物の生息場として適した河川環境を形成するためには、河川の流れの把握が重要である。しかし、河川の流れを把握するために、現地観測を流速の大きな上流や中流を対象に行った例は少ない。本研究では、千曲川中流域における河道特性の異なる箇所において流動観測を行い、河道形状ごと（直線部・蛇行部）の流れの特徴を把握することを目的とする。

方法

河道特性の異なる常田地区・岩野地区において、ADCP・電磁式流速計を用いた流動観測を行った。観測結果を、河川工学・流体力学で一般的にいわれている河道形状ごとの流れの特徴と比較し、分析する。

結論

千曲川中流域の流れは、一般的にいわれている特徴と比べて、水深・主流速・蛇行部の流心位置・二次流の強さにおいて同じ特徴を示したが、直線部の流心位置・蛇行部の二次流の向きにおいては異なる特徴を示した。また、直線部での二次流の向きにおいては、これまでに特にいわれてこなかった特徴をみいだすことができた。

指導教員 豊田 政史 助教